

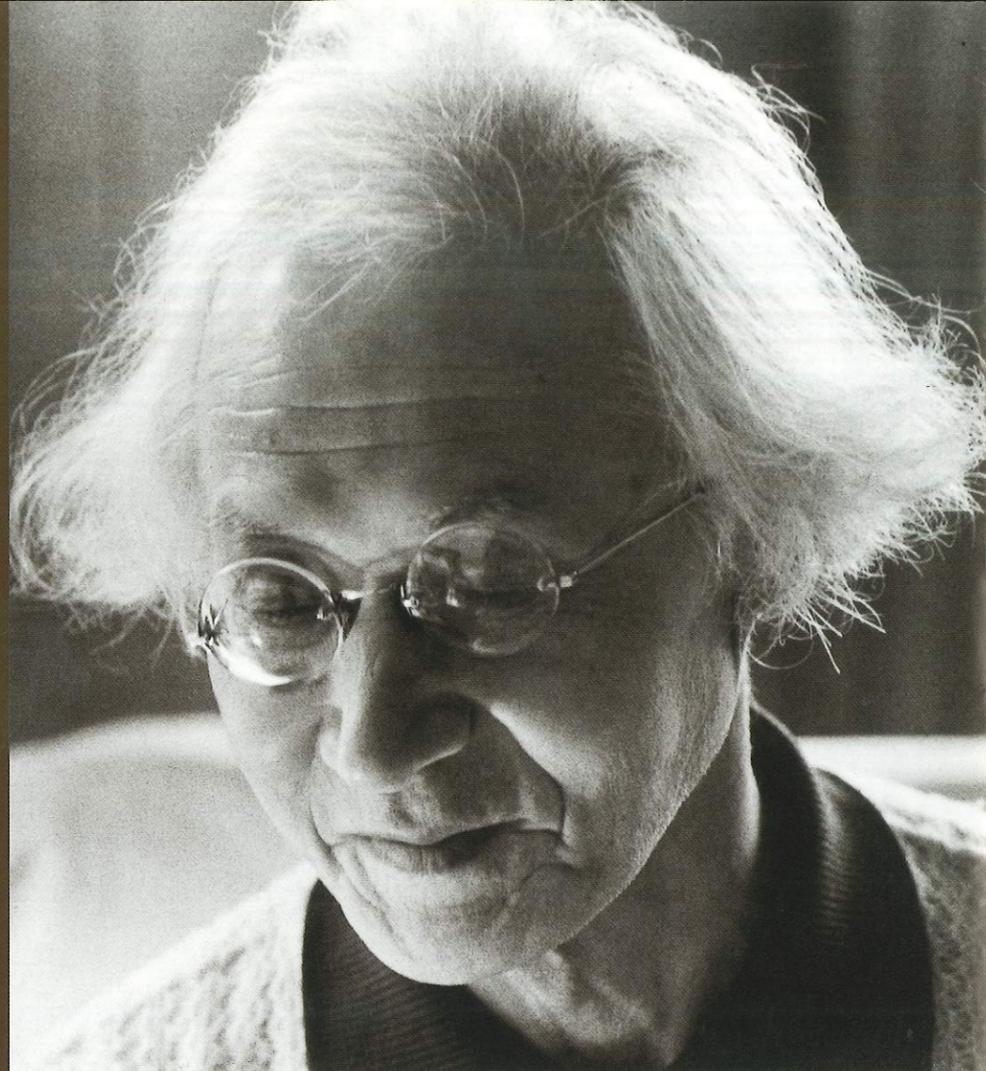
仲小路彰プロフィール

明治三十四年（一九〇一年）農商務大臣、仲小路廉の二男として東京に生まれる。夏目漱石を慕い、旧制五校へ。思索とパンカラな青春を熊本で送った。同窓に池田勇人、佐藤栄作がいた。東京帝国大学哲学科に進学。井上哲次郎、姉崎正治、和辻哲郎ら教授陣に天才と言われしめた。林達夫、三枝博音、三木清、戸坂潤らとマルクス主義研究会で唯物弁証法研究に加わった時期もあったが、やがて彼等と袂を分かった。昭和十二年から十六年にかけて「世界史話大成」全十巻、「日本世界主義大系」全十二巻中六巻を刊行。十三年から十八年にかけて「世界興廢大戦史」全百二十一巻中四十三巻を刊行。東京上野でレオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会を開催。

終戦時、四十五歳を迎え「我等斯ク信ズ」を執筆、陸海軍指導部に配布し、戦後復興の方向を示した。一時公職を追放されるが、その後、渋沢敬三等と財団法人文化建設会、地球文化研究所を設立。恒久平和のための地球主義を提唱し、また日本の未来図を描き理想像を探求、「未来学原論」を著す。富士山中湖のほとりに住し、音楽と執筆にこそしめ、戦後の保守政権の外交政策に隠然たる影響力を持った。その山中湖の仲小路のもとに、佐藤栄作首相、植村甲午郎経団連会長、松下幸之助らが訪ね、彼の助言や提言に耳を傾けている。昭和五十九年九月一日、湖畔を枕に八十三歳の生を閉じた。



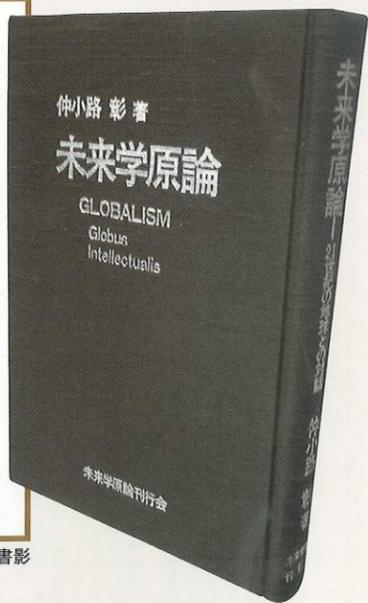
佐藤首相と仲小路彰（山中湖畔、ホテル・マウント富士にて）



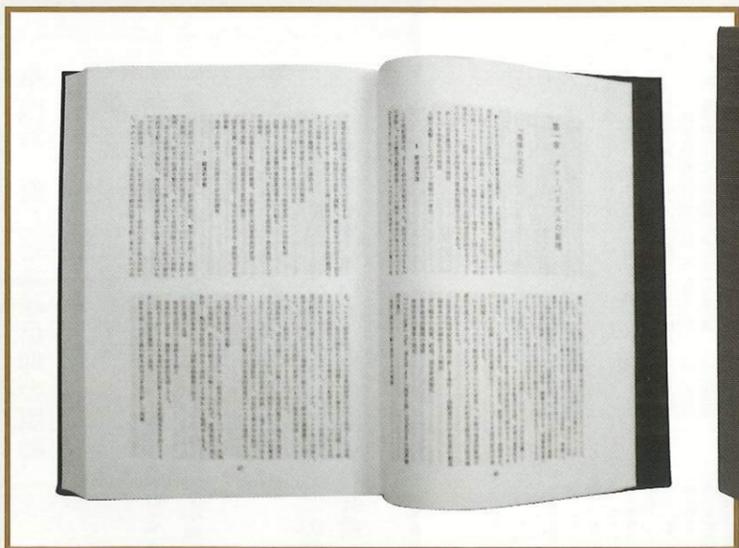
仲小路彰（フランス・ハール氏撮影）「懐想 仲小路彰」より

賢者「仲小路彰」という人

- ◆ 「仲小路彰君は、史上大なる一隻眼を具有するものと謂うべき」
（井上哲次郎）
- ◆ 「僕たちの想像を絶した、今までの次元をのりこえた仲小路さんの遠大な仕事場の堆積の中から、それらが一層の彫琢を受けて新たな結晶体となって輝き出る日」
（小島威彦）
- ◆ 「いずれは仲小路さんのこの『未来学原論』が海外に出版される時がくれば、日本には素晴らしい未来学者がいたことを知って世界は驚嘆するであろう」
（中島正樹）
- ◆ 「終戦直後の混乱の中で、国土は見るかげもなく荒廃し、襲いかかる飢えから逃れることに精一杯で、日本国民全体がすべての夢も希望も失っていた時に『グローバルズム』の思想体系を見せられたときの感動は、一種の衝撃であった」
（野島芳明）
- ◆ 「こんなすごい日本人がいたのか！…すべての問題を体系的にとらえている真の思想家。服役中の二年間、『未来学原論』を繰り返し読みました」
（藤本敏夫）
- ◆ 「青年時代の彼は、どこからみても文学や哲学の徒であり、保守政権の指南役、それも時代の背後に回る影のような存在となると思えばない」
（西尾幹二）



「未来学原論」原本書影



未来学原論 21世紀の地球との対話 仲小路彰著
 ◎菊判（二〇×二五）上製カバー装・六〇〇頁
 定価：四九三五円（本体：四七〇〇円＋税）
 ISBN978-4-336-05317-6 C0036

発行
国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>
 e-mail: sales@kokusho.co.jp

お取り扱い書店

未来学原論

21世紀の地球との対話

仲小路彰 著

GLOBALISM
 Globus Intellectualis

